とある農場の再建に挑む人々の赤裸々レポート

# 農場再建への道！

## 8．困難を越えて生まれた「一体感」
### ―農場長の不在を支えた現場―

ながいき動物診療所　永井希三代

皆さま、こんにちは。年の瀬の慌ただしさの中、寒さも一段と厳しくなってまいりました。連載は今回で第8回目となりました。当初は昨年12月号での掲載を予定しておりましたが、諸事情により本号での掲載となりました。何卒ご了承下さい。また、当初は今回をもって最終回とする予定でしたが、農場の状況に大きな変化があったこと、そして多くの方々から温かいご反響をいただいたことを受けて連載をあと2回（4月号・6月号）延長し、全10回でお届けすることになりました。「現場のリアルな声が参考になる」などの感想もいただきました。私にとってもこの連載を通じて、多くの学びを得ることができました。本企画は、読者の皆様にとって〝現場で役立つ情報共有の場〟であると同時に、農場再建に伴う従業員のモチベーションアップの起爆剤になればとの思いからスタートしました。この連載が励みとなり、実際に農場成績が向上していったことを心より感謝申し上げます。引き続き、もう少しだけお付き合い下さい。

## 農場状況の大きな変化

前回（9月号）の掲載後、この農場に大きな危機が訪れました。誠社長が体調を崩され、10月から約3カ月間の入院を余儀なくされたのでした。種付け作業を含む多くの現場業務を担っていた社長の不在は、農場にとって大きな試練でした。しかし、その中で中心となって現場を支えたのが社長の妹で新たに農場長（代理）となった、ななさんです。新たに農場長となって母豚管理や子豚対応などの作業に加えて、飼料管理や繁殖スケジュールの調整、さらには事務仕事もこなし、日々の作業を懸命に進めてこられました。社長の入院という突発的な出来事でしたが、従業員の意識にも変化が見られ、助け合いの姿勢が生まれて今まで以上に農場全体に〝チームとしての一体感〟が強く育まれていきました。

誠社長の不在期間中にどのような心情の変化があったのか？など、ななさんにインタビューをしました。ぜひ、ご覧下さい。

### ななさんからのメッセージ

農場主だった兄が急きょ、入院することになりました。代役として農場を回すことになってからというもの、正直なところ今もまだ、てんやわんやの毎日です。

農場に入って6年が経ち、ようやく現場のことが身体に馴染んできたところでしたが、兄の状況によっては、これからは「経営」も考えていかなくてはいけない事は大きなプレッシャーです。

それでも、心強い支えがたくさんあります。

現場を一緒に支えてくれている従業員のみんな、獣医の永井先生、養豚コンサルタントの原澤さん、さらに飼料会社様のご助力もあります。

問題はいろいろと出てきますが、今は一つひとつ基本を大切にしながら、できる限りのことを積み重ねていくつもりです。

兄の留守をしっかり守り、農場をより良い形でつないでいけるよう、日々取り組んでいます。

## 人工授精の導入

誠社長の不在期間中に現場から「もう少し簡便に種付けができないか？」という声が上がり、人工授精（AI）を導入することになりました。今まで誠社長が100％本交配を行っていましたが、代行が難しい状況となったため、従業員の清水さんが本交配できる時には担当し、それ以外は人工授精を中心に実施することになりました。

AIの導入にあたり、種豚場で人工授精を担当している方が研修を実施してくれました。実際の手技を確認し、ポイントなども丁寧に指導していただきました。私自身も研修会に参加し、改めて基本手技を見直す良い機会にもなりました。

以下に、現在農場で実践しているAIの方法を紹介いたします。人工授精の利点と欠点など合わせて、再度ご確認いただければ幸いです。

ポイントは、

**○離乳後4日目から朝・夕の2回、雄あてをして許容確認を行う。**

**☆離乳後4日目に許容が確認された場合**：その半日後に1回目AI、6時間以上あけて2回目AI、さらに6時間以上あけて3回目AIする（例：朝許容→夕方AI→翌朝AI→翌夕AI）

**☆離乳後5～6日目に許容が確認された場合**：すぐにAIし、24時間後にもう1回AI（ここは、2回で十分高い受胎率）

**☆離乳後7日目以降**：発情確認後にすぐAI（朝ならAM・PM・AM、夕方ならPM・AM・PMの3回）

**☆離乳後10日目でも発情が見られない母豚**：発情微弱・排卵終了の可能性あり。黄体退行処置後、セロトロピンやスイゴナン投与を検討する。

**○また、未経産豚はできたら本交配する（AIの場合は必ず3回行う）。**

**○本交配が可能な日や本交配ができた場合はそれで良く、AIはその半日後1回で十分。**

## 人工授精のやり方

陰部や尾の汚れを濡れたタオルなどでキレイに落とす

カテーテルの先端に潤滑剤をつける

膣壁の上側部（天井）に沿って挿入する（カテーテルが尿道口に迷入しないように）

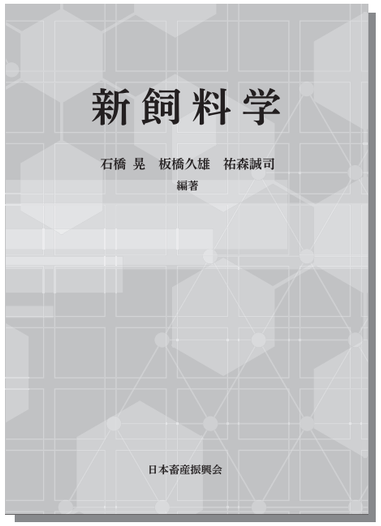
カテーテルを十分挿入後、反時計回りにカテーテルを回して、カテーテルを軽く引き、抵抗感を確認する

教育機関、飼料製造と畜産生産者の参考書として活用できる！

新刊

# 新飼料学

石橋 晃　板橋久雄　祐森誠司　編著




畜産業における飼料原料の有効利用を進める上で、飼料に関する新たな情報の追加や新しい飼料原料の開発が重要かつ身近な課題となっています。

本書は飼料に関する原点の確認とその歴史的な背景に始まり、大きな飼料区分に基づいた各種飼料原料の解説を展開し、末尾に飼料を必要とする動物の特性ほか、最近の話題となる食品の余剰生産におけるフードロスの対策等にも触れています。

飼料製造とそれらを利用する生産者たちの参考書として活用できる一冊となっています。

新飼料学　◆目次◆


Ⅰ　飼料と飼料原料の字義
Ⅱ　飼料の法規制
Ⅲ　粗飼料
Ⅳ　有用植物と有毒植物
Ⅴ　濃厚飼料
Ⅵ　飼料の加工、状態、貯蔵及び給与法
Ⅶ　動物由来の飼料原料
Ⅷ　エコフィード・リキッドフィーディング
Ⅸ　飼料添加物
Ⅹ　飼料と微生物
Ⅺ　飼料価値の評価
Ⅻ　飼料が必要となる理由とその適正能力


B5判　本文376ページ　定価5,500円（税込）　送料400円

↓お申し込みはこちらの用紙に必要事項をご記入の上、FAXしてください

申　込　書　　年　月　日

新飼料学　　冊

| | | | |
|---|---|---|---|
| ご氏名 | フリガナ | TEL<br>FAX | |
| ご住所 | フリガナ<br>〒□□□-□□□□ | | |
| ご請求先： | □会社・団体　□個人　□公的機関 | | |

TEL:03-3379-3741
FAX:03-3379-3787
注文E-mail：chuumon（ちゅうもん）@nihon-chikusan.co.jp

〒151-0053　東京都渋谷区代々木3-26-2
日本畜産振興会


## 人工授精の利点

○優良な雄豚の遺伝子を効率的に活用できる
○雄豚の飼育数削減で、スペースやコストを節約できる
○作業の標準化が進み、時間の見通しが立てやすい
○作業の安全性向上に繋がる
○夏場の暑熱期でも精液性状が安定していることで、受胎率が落ちにくい　など

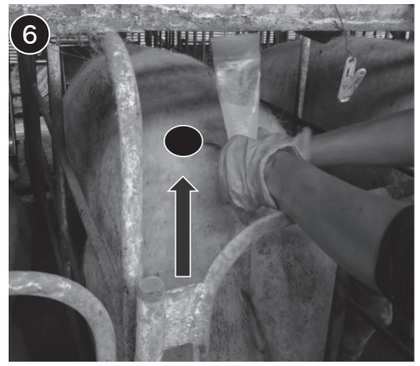
## 人工授精の欠点

○発情の質を見極める観察力が求められる
○技術習得まで一定の反復が必要となる
○徹底した精液管理や在庫管理の難しさがある
○丁寧な作業が重要である
○精液の輸送遅延や運送中の温度変化など外部影響も受けることがある
など

## 2025年の目標は？

「母豚15頭削減で出荷頭数を昨年よりも300頭増加を目指す！」。

温度管理を徹底した精液を取り出す



精液の先端をカットし、カテーテルに挿入する。最初は、カテーテルの空気を出すために押し出す。その後は、自然に入るのを待つ。（この辺をマッサージしながら行うとよい）

精液を全て挿入し終わったら、蓋をして逆流を防ぎ２～３分後にカテーテル抜いて終了

これが２０２５年の目標でした。一昨年末に母豚の入れ替えを行ったため、母豚頭数は約15頭減り、母豚１６５頭となっております。現時点（25年11月執筆中）では、まだ年間の出荷成績が確定しておらず、目標を達成できたかどうか？については、次号（４月号）でお伝えできる予定です。そこから見えてきた課題や改善のポイントについてもご紹介したいと思っております。

本年も「どうやったら、今まで以上に多くの豚を出荷できるのか?」を農場の皆様と一緒に考え、できることを一つづつ実行に移していきたいと思います。また、無駄な経費を省くことも同じくらい重要ですので、そこにも力を入れていきたいと思っております。引き続き、温かく見守っていただければ幸いです。

皆さまにとって、今年も良いことがたくさん訪れますように。

この人工授精のやり方を導入してから約２カ月弱が経過しましたが、再発母豚の増加などの変化も見られず、受胎率は従来どおりで安定しております。特に混乱などもなく、人工授精にスムーズに移行できたことは、従業員の皆様が研修通りに丁寧に人工授精の作業に取り組んでいる証であると思っております。